

# ＊織小紋

YONEORI KOMON

『米織小紋』は、日本古来の小紋柄と伝統色を組み合わせ、現代のライフスタイルに調和する和のアクセントとなるアイテムを取り揃えました。晒よりしっかりしていて、帆布より柔らかい。織物ならではの柄の表現や風合いは、どこか懐かしく、それでいて新しい。そんな「日本」を感じさせるものづくりにこだわっています。

## ＊米織小紋の定番 16 柄

米織小紋の柄は、縁起の良い「吉祥紋」を中心に展開しています。紋様にはそれぞれに意味や物語があり、普段の生活にさりげなく取り入れることで暮らしを楽しみ、豊かさをもたらしてくれることでしょう。古典的な和柄と思われがちですが、柄を反転・リサイズしたりすることで、伝統と現代が調和した米織小紋のスタイルを提案しています。



豆絞り / mameshibori

本来豆絞りとは、紺地に白、または白地に紺で、豆粒のような小さな丸を並べた絞り染めのこと。タテ・ヨコ・斜めに線が引ける「筋の通りが良い」とされる江戸小紋で、物事がうまく運ぶ縁起をかついだ吉祥紋。



分銅つなぎ / fundou tsunagi

波形の曲線を斜めに交差させた連続模様。線に囲まれた樹目を、秤(はかり)で物の目方を量る時に使う重りの「分銅」に見立て、名付けられた。分銅が連鎖する、お金に困らないという縁起を担いだ小紋。



七宝 / shippou

輪つなぎの文様で、四方八方に輪が広がっていく。仏教でいう七つの宝は金・銀・瑠璃・玻璃・しゃこ・瑪瑙・真珠。人と人との縁は、当時の財宝「七宝」と同等の価値があるという紋様。



網代 / ajiro

竹や葦、檜皮を薄く削ったものを交差させて組んだものが網代。「収穫を獲る」「五穀豊穡」など豊かさを表し、邪気を通さないとされ、魔除けの意味合いも。日本古来から随所で用いられる紋様。



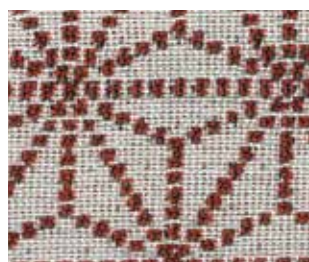
市松 / ichimatsu

石畳とも呼ばれる柄。伊勢神宮の神事でも用いられるこの文様は「浄化」「厄除け」に由来し、江戸時代、人気歌舞伎役者 佐野川市松が多用し「市松柄」の名称で粋な江戸っ子に好まれた。



唐草 / karakusa

植物の茎や蔓(つる)が描く波状の連続柄。蔓草が延々と繋がっていく様子から「縁がつながる」「繁栄する」など、人間関係が良好になる縁起柄として人気。



麻の葉 / asanoha

麻は古来から神聖なものとして神事に用いられてきた。麻が短い期間で「すくすく丈夫に育つ」のにあやかり、子どもの健やかな成長の願いをこめ麻の葉模様の産着を着せる風習があった。



矢羽根 / yabane

矢の上部につける、鷲や鷹などの羽根を「矢羽」といい、江戸時代、結婚の際に矢絰の着物を持たせると出戻ってこない(射た矢は戻ってこない)縁起を担いだ柄。

## ＊米織小紋の織物

米織小紋で使用している生地は、「先染め」という染め上げた色系と色糸を組み合わせる柄を表現する織物で、ジャカード織機と呼ばれる機械で「風通織り」という緻密な二重構造で柄を織り上げています。「風通織り」は表と裏がネガとポジに柄が現れ両面の柄を楽しんでいただけるのも、米織小紋の特長です。

通常、小紋柄は捺染と呼ばれる白い生地の上にプリントして絵柄を表現する手法で作られますが、米織小紋は織りで表現するため織物ならではの質感や風合いを醸し出しています。

使い勝手を考え、綿100%にすることで、丈夫で洗濯も可能な日常生活に「馴染む」素材としてそれぞれのアイテムに展開しています。



米織小紋で使用している先染め綿糸



米織小紋を織るジャカード織機



梅 / ume

梅の原産地は中国だが、奈良時代にはすでに日本に伝えられた。梅は別名【好文木】学問を好む木といわれ「学業成就」「大願成就」の吉祥紋。



鮫小紋 / samekomon

鮫の皮のように細かい点で円弧形を重ねた模様を表した「厄除・魔除」の小紋。小紋といえば鮫小紋を連想するほど有名な柄。大きさや表情の違いにより三位の鮫、二タリ鮫、カ印の鮫、サ印の鮫、極鮫…と呼ばれる。



桜 / sakura

平安時代「花」=「桜」を指すようになったほど、日本では古くから愛されてきた桜。幸先の良い「物事のはじまり」を意味し、桜の花が一齐に咲く様子から「繁栄・豊かさ」の意味もある。



茄子 / nasu

一富士二鷹三茄子と初夢の吉夢とされているように吉祥紋として知られ、茄子は物事の成りなすにかけたもの。「立身出世」「大願成就」のおめでたい文様として江戸時代から好まれている。



鹿の子 / kanoko

小鹿の背中模様に似ていることから名付けられた。鹿は神の使いともされる縁起のよい動物であり、鹿の生命力の高さから「子孫繁栄」の意味がある紋様。



亀甲つなぎ / kikkou tsunagi

亀甲文様とは正六角形の幾何学模様を指し、形が亀の甲羅に似ているのでその呼び名が付いた。亀は万年…といわれ、健康長寿の象徴とされている。



鱗 / uroko

龍のうろこを表し「魔除け・厄除け」の柄として、古代から伝わった。新しい鱗は古い鱗の下より生えてくることから、再生や若々しさの象徴の意味ももつ。



紗綾形 / sayagata

桃山時代に中国から輸入された絹織物・紗綾に多く見られた模様のため紗綾形と呼ばれる。「不断長久」の意味があり、家の繁栄や長寿への願いが込められている。